

コード	602030201
記入日:	H22.6.2

課コード	108
課名	まちづくり推進課
課長名	近藤 恭明
担当者	江口幸男

## 事務事業途中評価表

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	コミュニティ助成事業
----------	------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	6	政策名称	参加と行政による協働のまちづくり	款コード	2
施策コード	602	施策名称	住民参加のしまづくり	項コード	1
基本事業コード	60203	基本事業名称	コミュニティ活動の推進	目コード	7
事務事業コード	6020302	事務事業名称	コミュニティ助成事業	細目コード	802
関連計画			法令・条例規則等		

**計画(PLAN)** ※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標				
(対象1)	全町民	(対象指標1)	23,719人(H21.4.1)			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	丸尾公園遊具整備事業 弁財天太鼓購入助成事業	*****	*****	*****	採択件数÷要望件数	*****
		① 採択件数	2件	100%		平成21年度
		(達成率分析)	老朽化し、危険になっているため丸尾公園遊具の撤去及び整備を行った。 有川地区の弁財天については太鼓とバチの購入。			
		*****	*****	*****	*****	*****
		② (達成率分析)				
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
コミュニティ助成事業とは、住民が自主的に行うコミュニティ活動の促進を図り、地域の連帯感に基づく自治意識を盛り上げることを目指すもので、コミュニティ活動に直接必要な施設、又は設備の整備に関する事業。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		*****	*****	*****	実績 2事業 ÷ 計画 2事業	*****
		① 整備箇所	2箇所	100%		平成21年度
		(達成率分析)	丸尾公園遊具整備事業 弁財天太鼓購入助成事業			
		*****	*****	*****	*****	*****
		② (達成率分析)				

**実施(DO)** ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 件	3	3	1	2	2					
	②										
成果指標	① 箇所	3	3	1	2	2					
	②										
総事業費C (A+B)	千円	10,804	10,804	4,509	6,295	6,295					
直接事業費 A	千円	6,604	6,604	2,409	4,195	4,195					
人件費 B	千円	4,200	4,200	2,100	2,100	2,100					
内訳	従事職員数	人	0.6	0.3	0.3	0.3					
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円	6,604	6,604	2,409	4,195	4,195				
	一般財源	千円	4,200	4,200	2,100	2,100	2,100				

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	事業費のほとんどはコミュニティ助成金である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	事業費のほとんどはコミュニティ助成金であり、助成が受けられるなら実施するべきである。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	実際に必要(要望があった)な事業を行う。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	実際に有効活用されている。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	対象事業が限られている。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	県内の枠があるために採択されることが必要。
	類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	類似事業がないため。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	コミュニティ助成金であり、削減できる経費がない。
	人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	最小の人員で行なっている。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	受益者の負担は、原則発生しない。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	住民が自主的に行なうコミュニティ活動の促進を図るために必要である。
		有効性	コミュニティ活動に直接必要な施設・設備を住民の要望に合わせて整備できる。
		効率性	事業費のほとんどがコミュニティ助成金で補助されるため極めて効率的である。
		課題に向けた改善策	特になし
改善策	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	今後も住民の要望等を聞きながら、施設整備等に助成事業を積極的に活用していくこと。
		効率性	1次評価のとおり

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。